

No. 16 大多喜高等学校の支援について（平成 30 年 8 月受付）

内容	生徒減少は、通学に問題が多くあり交通費が高い。通学のバスの便が少ない。自転車通学は雨天時危険？他町からの通学は困難のため、廃校を利用して、寮、寄宿舎に一部改築して、放課後の部活も安心して出来る様出来れば、月～金を団体生活し週末は家に帰り、食事は給食センターの食事、生活家電は寄付で賄い、各町村の進学希望者に呼びかけて、多くの高校生活を過してもらい、学生を増し県一の教育の町作りに前進廃校再利用して集団生活を楽しんでももらいたい。現に島国や雪深い村に高校や大学を造ったニュースを良く耳にする。
回答	現在、大多喜高等学校の支援につきましては、町で「大多喜高等学校支援推進委員会」を設置し、高等学校の学習支援などに努めているところです。また、高校生が小学校や中学校を訪れて行う学習ボランティアなど、地元唯一の高等学校として、大多喜高等学校への支援と町内小中学校との連携を深めているところです。 大多喜高等学校の生徒数の減少につきましては、ご指摘のとおり通学方法に関するものも要因の一つと考えられますが、平成30年度における大多喜高等学校の定員割れの原因としては、夷隅地区・長生地区の中学3年生の生徒数に対し、同地区を含む公私立高等学校の定員数の方が大きかったことが、最も大きな要因と考えられます。 また、廃校の活用については、それぞれの校舎が他の用途での活用が現在検討されているところです。なお、校舎を寮として使用するには、大規模改築が見込まれるとともに、食事の提供についても給食センターでは対応が困難であると考えます。 町としては、引き続き大多喜高等学校の特色ある学校づくりへの積極的な支援とともに、保育園、小学校、中学校との学びの連携を一層深め

	る中で、地元高等学校としての存在感を高めてまいりたいと考えていますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。
--	---